

1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

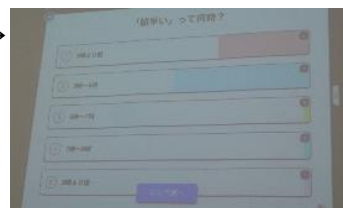
学校名	岡山瀬戸高等支援学校	指導者名	羽崎綾乃・池本瑛美香 ・松下直生
実践場面 (教科名)	情報	単元・題材名	SNSとコミュニケーション
学習目標・ ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSでの主な情報の伝達方法（短文でのやりとり）や、情報の受け取り方には個人差があることを知る。（知識及び技能） ・ SNSのやりとりの例から、問題点や改善策を考えるとともに、その理由を説明することができる。（思考力、判断力、表現力等） 		
対象児童生徒の 実態	知的部門 高等部 1年		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの生徒がスマホやタブレット端末を所持している。 ・ 文章から気持ちを読み取ることが難しい生徒が多い。 ・ 書き言葉で自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が多い。 		

活用の概要

活動の流れ

- (1) SNSの特徴や危険性を知る。
- (2) 自分と他人の情報の受け取り方の違いに気付く。
- (3) 特定の言葉を人から自分に言われた際に、自分が受ける印象について考えたり、SNSの例から誤解を受けやすい表現や適切な表現方法を考え、その理由を説明したりする。

写真1→



・授業では、生徒1人1台端末（以下、iPad）でロイロノート（以下、ロイロ）を使用し、教師はスライドの提示やアンケートの配付、シンキングツールの提示を行った。生徒はiPad上でアンケートの回答や、シンキングツールの操作をし、それらの提出を行った。アンケートの集計はロイロで自動的に瞬時に行われ、ロイロ上で提出されたアンケートやシンキングツールは、すぐにiPad上で提示することができた。



↑写真2

↓写真3

・最初に、ロイロのアンケートをクイズ形式で行うことで感覚のズレを確認し生徒の興味を引くことができたようにした。（写真1）



・次に、5枚のカード（頭いいね、面白いね、変わってるね、大人しいね、真面目だね）を使用し、言われて嬉しい言葉と嫌な言葉に分類した。（写真2、3）

・分類した後、提出をさせてクラス全員でそれぞれの分類を確認することで、自分とは違う意見を持つ人もいるということを知り、「自分とはこんなにも考え方が違うんだ」という反応を引き出すことができた。

・その後、3枚の画像を見て問題発言とどのように言い換えればよいかを考えることも行った。書き方がわからない生徒については挙手して質問するよう促した。（写真4～7）



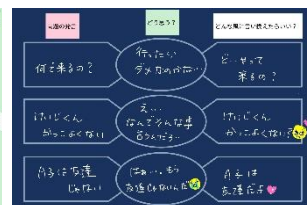
↑写真4



↑写真5



↑写真6



↑写真7

成果や活用の ポイント ・ 課題、改善点 等

- ・ アンケート（写真1）は、各自、数問のアンケートに答えてから結果を提示するのではなく、クイズ形式で、1問ごとにすぐに結果を提示することで、生徒の関心を引き出したり、テンポ良く活動を進めたりすることができた。
- ・ 5枚のカードの分類（写真3）は、カードの並べ方にも生徒の工夫が見られ、理由を答えてもらうことで、より他の生徒の意見の理解につながったり、自分と似た分類でも意見が全く同じではないことに気付いたりした生徒もいた。
- ・ シンキングツールのキャンディチャート（写真7）は理解度に個人差が大きく見られたため、詳しい手順を視覚的に提示することが必要であると感じた。